

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2151回★★ (奥秩父) 茅ヶ岳, 瑞牆山, 金峰山	11月1日(土)~3日(祝) 11月1日 5:00 発	岡田 茂久 (790)	京都=斐崎=観音崎-茅ヶ岳-観音峠=木賊峠=金山平(幕営) 金山平=里宮平-瑞牆山-里宮平=信州峠=川上=大弛峠(幕営) 大弛峠-金峰山-大弛峠-国師ヶ岳-大弛峠=石和温泉=甲府=京都
備考 奥秩父の錦繡の秋を堪能しましょう。 マイカー, 幕営山行に付き, 申込み先着順6名まで。状況により小屋泊			
第2152回★★★ 塩見岳	11月4日(火)~6日(木) 4日 6:00 壬生発	吉田 武 (内 654) (外 337-0998)	4日 京都東IC-松川IC-大鹿村-豊口山林道(駐) ...三伏峠(泊) 5日 三伏峠-木谷山・塩見岳-三伏峠(駐)-京都
備考 マイカー山行のため参加者は担当者まで連絡して下さい。 冬山装備要			
第2153回★ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 山岳連盟平成9年 一斉清掃登山大会 </div> 天王山	11月9日(日) 9:00 JR山崎駅前集合	岡田 茂久 (790)	(天王山を守る会と合同) 山岳連盟天王山清掃担当 京交山岳部 三菱電機洛菱山岳部
備考 多数の方の参加を願います。 小雨決行。軍手, ゴミ袋は用意します。			
第2154回★★ リトル比良縦走	11月15日(土) 8:30 JR湖西線 北小松駅	馬淵 拓巳 (内 548) (外 822-9119)	
今月の集会 日時 11月10日(月) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室		企画運営委員会 日時 11月19日(水) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室	



10月12日に地下鉄東西線が開通した。多くの人々が待ち望んだ開業である。開通の日に、早朝から駅の案内に立ったが、真新しい駅に多くの乗客が嬉しそうに集まってくださり、本当に幸せな思いになった。思えば平成2年1月に着手した工事が7年9ヶ月の努力の結果、やっと完成したのである。計画・準備の期間をいれると20年来の念願が実現したのである。喜びと同時に忘れてはならないのは、同日に山科・醍醐地域から市バスが消えたことである。醍醐営業所は廃止となり、京阪バスに運営が一元化された。

交通局の歴史をみると、明治28年に市電の運行が始まり、一世を風靡したが、モータリゼーションの波に押されて、昭和53年にその姿を消した。市バス輸送は昭和3年に始まり、市電無き後の市民の足となったが、これもマイカーの伸長による慢性的な交通渋滞と乗客離れから、その主役を都市高速鉄道へ移しつつある。

地下鉄は早くて快適な乗りものである。とりわけ東西線はホームドアという関西では初めての施設を備え、各駅ともエレベータ・エスカレータを完備し、トイレは男女ともに身体障害者対応でベビーベッドもついているなど、公共の施設として福祉への最大限の配慮をしている。その一方で建設コストを圧縮するため、出入口は必要最小限の2ヶ所の駅が多く、また有人改札口は1ヶ所で、駅務室と一体になっている。トンネルも駅も車両も烏丸線より小さい。京都の地下鉄の総延長は23.8kmになり、とにもかくにも交通局の新しい時代が始まったといえる。

変遷といえば、我が京交山岳部も時代とともに変わりつつあり、再来年には50周年を迎えるが、京都府山岳連盟は今年が50周年で、10月18、19日には花背の山村都市交流の森で山岳連盟所属団体の交流集会があり、約250人が集まった。京交山岳部からも約20名が参加して、キャンプファイヤーのもとで他の山岳団体と語り合った。どの山岳団体も我々と同じように若者の参加が少ないのが悩みの種である。反面、中高年の方々の意気は益々盛んで、特に街の山岳会は中高年の参加申し込みがひきも切らないとのことである。登山は現代のキーワード——余暇、健康、自然、環境——にぴったりのスポーツであるが、若者を引きつけるようなスピードや華やかさに欠けるのも事実である。しかし、キャンプファイヤーで無邪気にはしゃぐ小生も含めた中高年諸氏を見ると、無理して若い人をひっぱってくる必要もないかという気になってくる。

(S.I)

【第2146回例会】

台高山脈 ^{あざみ}蘇 岳 (1,406 m)

井戸澄夫

台風19号が九州に上陸し、近畿へ向かっており、雨雲は広く日本列島を覆っている。またまた台風におち当たって不運とは思いますが、台高はもともと雨の多い所、少々の雨でやめるわけにはいかない。(9月13日) 予定どおり竹田駅西口に集合、総勢8名で2台に分乗して出発。例により田原本で堀田君を拾う。飛鳥で夜の食材を買いこみ、夕方6時にヒュッテ台高に到着した。主人の久保清右衛門氏御夫妻が暖く迎えてくださった。久保氏は昭和33年の京交山岳部による厳冬の台高山脈の初縦走時に、サポート隊を率いてくださったとのことである。当時のことについて色々とお話を伺った。夕食は最近京交山岳部で流行っているオイルフォンデュであった。手軽に出来てビールにもよく合う。材料を買い込みすぎたのか、あるいは清水(康)君の腹の調子が悪かったのか、多量に余ってしまったのが残念である。(9月14日) 5:00起床のつもりが6:00になってしまった。入部したての小森氏(高速本部長)はきちっと5:00に起きておられた。雑炊をすすりこんで、登らないという田村、山岡両氏に後の片付けを頼んで、7:00に蘇岳に向け出発した。雲は低く垂れこめ、いまにも泣き出しそうである。ヒュッテから林道を少しはいると登り口がある。道はしっかりと整備されている。2時間ほど急坂を登ると大鏡池に着く。地図には大鏡神社となっているが、神社らしきものは見当たらない。三橋氏が三角点(△1,182m)を見に行った。三等だそうである。ここからは傾斜が緩くなるが、山頂付近はやせ尾根になり、岩場もあり、ちょっとしたアルペン気分を味わえる。山頂は狭く、やせ尾根の一部という感じである。写真をとりコーヒーをわかして飲むうちに、いよいよ雨がやってきた。本降りである。雨具を着て歩くのは久しぶりである。

明神平までは標高差はほとんどなく、道もなだらかな尾根道である。ふりかえると雨の中に蘇岳のキリッとした三角形の姿が印象的であった。途中で大又林道に下りる道がないかと注意していたが、結局見つからなかった。明神平は昔スキー場があったところで、高原状の牧歌的雰囲気をもっている。山頂の天理大の小屋にはカギがかかっていたので、屋根のついた休憩所で大阪の4人グループといっしょに昼食をとった。天気がよければ明神岳や国見岳にも登れたろうが、台風が近づいているので下山することにした。大又林道の終点には田村氏が車をまわして待っていてくれるはずである。下りは急だがしっかりと道がついている。雨も少し小やみになってきた。下からは雨にもかかわらず多くのハイカーが登ってきていた。1時間ほどで林道に着き、山岡君が迎えてくれた。

帰路、最近できたやはた温泉(500円)で汗を流し、大字陀から桜井へ抜ける道を通して渋滞もなく帰落した。

【コースタイム】

9/13 13:00 竹田駅集合 R-24, R-169 上市 — 鷺家口 — 大又 18:00 (ヒュッテ台高)
9/14 6:00 起床(朝食) 7:00 ヒュッテ出発 --- 8:00 古池辻 ---
9:00 大鏡神社 9:20 --- 10:10 蘇岳 10:40 --- 11:50 明神平(昼食)
12:25 --- 13:20 林道終点 — やはた温泉入浴 — 帰洛

【参加者】 三橋 勉, 森本清一, 小森 浩, 田村正弘, 上村次男, 山岡昭弘,
清水康裕, 堀田 剛, 井戸澄夫 (9名)

20万仙台地勢図の山(その1)

伊 藤 潤 治

一、青麻(あおそ)山, 白石(仙台8号)

『日本山嶽志』に、「大刈田嶽, 磐城国刈田郡ノ北方ニアリ, 宮村ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高凡二千六百四十尺。」と記述の山。

ただしこの大刈田嶽は, 山麓に刈田嶺神社(昭和39年度の発行図は神社と山頂を破線路で結んでいる)があって, 蔵王に刈田岳の呼称が生れる以前に呼ばれていた旧名なのである。

8月21日(木), 京都を7時発のひかり126号で, 東京からは10時12分発のやまびこ12号で, 白石蔵王着は12時10分であった。駅には既に仙台交通局OBの永浦さんと庄子さんがきて下さっていた。

直ちに青麻山無線中継塔の建つ登山口へ, 空は暗くないのに山麓に入っても, 青麻山はガスで煙って姿がなかった。

駐車地点は標高約440mで, 到着は12時53分。そこにガスは存在していなかった。視界が閉ざされていたのに標高500m以上であった。

先ず地形図どおり下ってから緩やかに上がって行く, 新芽のような初々しい葉を交えた自然林の尾根にかかると, 白地にほんのり桃色を染めて, 美しい五弁の小花が静かに咲いていた。可憐なものだった。しかしせっかく咲いてくれたのに, その花名を報告できなくて申し訳ない。

登山道は暗緑の中, ガスが木立の幹を乳白色で取り巻く幽玄な林間を細々と一筋に続き, コンター600mにつくと, 待っていたような涼風があり, ありがたい憩場であった。

道はそこから斜めの急登で, 晴れていれば蔵王が眺められる唯一の展望をもつ露岩につく, 露岩は谷側のガスに起立していた。

露岩からは広い山稜の緩やかなのぼりに変わりわずかで, 青麻山799.9mの平坦な山頂に立つことができた。14時35分, 感謝感激で15時まで滞頂した。

この山は20万仙台図に△があるので選んだ。だから当然二等三角点であると確信してきたが、登ってみると標石は二等ではなくて三等であった。手持図は昭和35年と昭和44年発行である。最近の発行図はこれを訂正しているだろうか。これは非常に気になることである。

標石の傍らには小石祠の外に、大切な人を祀る囲いか石矢来が組んであった。小石祠に供物があったのは、敬虔な祈りのあとだろう、祖先からの信仰を継承している人のものかも知れない。

青麻山は美しい自然林にガスのきれいな演出、そして山頂には隠れた真摯な信仰が現存していて、これは思いがけない掘り出し物として感動した山であった。

ちなみに『広辞苑』によると、あおそ、〔青麻・青苧〕（青みを帯びているからいう）カラムシ〔苧麻・ちよま〕の茎の皮から取り出す繊維。とあり、これによると青麻の山名は苧麻のかかわった命名かも知れないが、それよりも翠黛の表現としてこの山名は、実に心にくい命名であると思った。

往路を車に戻って15時45分。それよりその夜の宿、七ヶ宿町滑津の吉野屋に向い、途中軽4WD車を借り入れ、さらに草鞋まつりの祭場で大わらじを拝礼などで、吉野屋着は18時25分であった。

吉野屋は民宿兼業の手打そばで有名なお店であった。おかみさんの明るくて面倒見のよい肝っ玉かあさんであったのもうれしかった。

そのご花名は、高木志茂子さんより「レンゲショウマ」と知らされた。それを参考までに、『原色牧野植物大図鑑』よりここに抜粋させてもらう。

「レンゲショウマ、(クサレンゲ) 本州福島県から奈良県の山中の樹下に生える日本特産の多年草、高さ40~60cm。葉は両面無毛。花は夏、茎の上部に長い花枝を分岐しまばらな総状花序に、径3.5cmの花を下向きにつけている。がく片多数、花弁状、長さ1.5cm位。花弁も多数、長さ1.2cm位。和名は草がシウマで花がハスのようであるからという。

二、番城山 上山 (仙台12号)

番城山に登りたいと永浦さんに頼んだのは、大朝日岳Ⅱ1,870m (朝日岳)、白鷹山Ⅰ986m (荒砥)、龍樹山Ⅱ377m (赤湯) を登った1977年8月であった。それからどうしていたのであろう、数えると20年もの歳月をごぶさたしていたのであった。

この山も『日本山嶽志』、「番城山、磐城国刈田郡、羽前国南村山郡ニ跨カル、刈田郡七ヶ宿村ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス。全山火山岩ヨリ成ル。標高四千四百八十五尺」からで、その頃考えていた登路は、昭和46年6月発行図より、境沢から大野沢をさかのぼっている林道を詰め、そこから左岸の等高線尾根を番城山南尾根に上って、頂上に向かうべきだと決めていた。

昨年、ふと急に番城山は今年登らねば、もう登れなくなると思い、上山五万平成7年12月発行図を入手すると、大野沢林道は破線に変わって、山形県境直下まで延びており、さらに驚いたのは、猫沢に林道ができてきていることである。これは躍り上がるほどうれしかった。けれど大野沢

か猫沢かの二者択一に戸惑っている内に出られなくなりました。

年が替わり夏が近づくと、番城山への思いが高ぶり、準備のために七ヶ宿町へ、大野沢と猫沢とどちらが登山道として、安全で有利であるか、ご助言をお願い申し上げた。

七ヶ宿町さんは7月7日付けで、「番城山の入山についてですが、この山は登山のルートではないため歩道はありません。山頂付近一带は2メートル以上の熊笹が密生しており、歩行も困難であり、さらに見通しが利かないため進行方向を見失います。地元の精通している方も一昨年行方不明となり、搜索の結果、死亡して発見される事故が発生しております。またこの一带はツキノワ熊の生息域であり大きな危険を伴います。なお林道猫沢線は現在国有林林道の途中が土砂崩れのため中間付近で通行不能となっております。また大野沢の道路は、木材搬出のために使用された作業路であるため幅員が狭く荒廃しており、4輪駆動の軽自動車でもないと通行できない危険な道路ですが、歩行することは可能です。ただし道路の終点からは上記にあるとおりの熊笹の密生帯が延々と山頂まで続いております。

このようなことから番城山への登頂については残念ながらお勧めする事はできません」と、ご懇切なご教示をいただいたのである。

大野沢の破線によらねばならぬかと思っていたが、お勧めできません、とあるのには参った。ここ七ヶ宿は『日本山嶽表』が磐城国の登路にしている所である、だが山の半分は羽前国領であり、ひよっとすると登る道がついているかも知れないと、気がつき上山市へお尋ねすることにした。そして藁にもすがりたい時なので点ノ記を交付してもらった。

点ノ記にはうれしい項目があって元気付けられた。その項を抜粋すると、

「地名」 山形県南村山郡東村大字菖蒲字米沢山俗称番城山。

「観測の年月日」 明治三十年九月七日。

「点ニ至ル順路」 上ノ山町南端ヲでテ東村大字菖蒲ニ至ル約二里車ヲ通ス、菖蒲ヨリ大字古屋敷ニ通スル道路ヲ進ム約三十丁来タ古屋敷ニ達セザル四五丁ヨリ右折小径ヲ取り進ム約廿丁山麓ニ達ス、是迄ハ馬ヲ通ス、夫ヨリ急峻ナル坂路ヲ上ル約一里、頂界線ノ稍々下方ニテ左折シテ登レバ二三丁ニテ点ノ位置ニ至ル、標高千五六百米突。

「作業間接宿ノ方法」 山頂ニ古峯神社ノ祠アリ、板屋根ニシテ五六人ヲ容ル、天幕ニ代用シ棲宿スルヲ得ベシ。

以上、抜粋した項目に元気づけられたが、明治三十年の観測後、一度も改測がなされないまま、今年丁度100年目である。山頂は標石はどんな状態だろう。ものすごい魅力がある。次は番城山にも山頂神が祀られていたこと。登拝はいまも受け継がれているだろうか。強く心ひかれた。なお順路は古峯神社の参道ではなかったか、とにかくこれらだけでも価値大であり、登らねばならぬと思った。

八紘嶺 (1,918m) と大谷嶺 (2,000m)

坂井久光

9/8 午後出発して静岡駅で下車、鷹ノ巣カプセルH泊。翌9日新静岡発6:17梅ヶ島行バスに乗車、雨の為梅ヶ島温泉で下車(8:01)。雨も小降になりやみそうなのでさかや民宿で予約して八紘嶺か安信峠ハイクに出掛けた(8:30)。

登山路は車道を上り約200m先に標識があり松林を登って行く、良い道で歩道と再会する辺り、その先で安信峠との分岐がありジグザグを混へて急坂が続くが刈込があり要所にはザイルが張られ整備されていた。やがて稜線に達し、大井川との分水嶺で北側は断崖である。コブを二・三越し八紘嶺に11時頃着。

雨は上り、少憩後大谷嶺に向かった。途中五色ノ頭を始めコブが多かったが、危険ヶ所は山頂を下り切ったコルから右手の山腹をトラバースする地点位で、後は緩やかなアップダウンコース。

大谷嶺は大谷崩の源頭のピークで探したが、三角点は見付からず崩落した可能性もあるが、標柱丈は沢山立っていた。ガスが切れて一瞬本来の主目的の山伏(2,013m二等△)の巨体が雲煙の中に浮出た。少憩後(13:40)出発。往路下山した。八紘嶺は七面山への分岐で静岡県と山梨県の身延町と早川町の間である。

梅ヶ島温泉は硫黄泉で天然泉だが、微温ですべすべの肌にやさしい温泉で開場は1500年前のこと。又武田信玄の隠湯の一つとも云われており、下流の日影沢には昔金山があり、今でも金山口のバス停が名残りを示しており、古いひなびた出湯の里も安信峠の国道開通やバスの便もあり、旅館ホテルも立ち、民宿で自炊後はさかや一軒で、親切なもてなしで岳人達の好評の宿であるようだ。

又の機会に二等三角点の山伏を登り、静岡市営の立派な避難小屋で一泊してみたい。

山草は稜線の岩やガレ場にチソ科の山チソや岩キキョウが青い美花をつけていた。

梅ヶ島帰着17:15。翌10日9:23発バスで静岡経由帰洛。

【個人山行】

羊 蹄 山

岡 田 茂 久

羊蹄山に駆足登山をしてきた。札幌駅前のバスターミナルに出発時間ぎりぎりに駆け込む。予約していた洞爺湖行きのバスの車内は思ったより空いている。定山溪温泉を過ぎ、楽しみにしていた夕刻の中山峠からの展望は曇り空のために期待外れ、返りは早や薄墨色に染まっていた。空腹を覚えて焼きトウモロコシを噛ると、醤油の味と甘みがじわーっと口の中に広がる本場の味に感激する。

北国の夕暮れは早い。ルスツでは辺りはもう真っ暗、雪のシーズンはさぞ賑やかであろうルスツリゾート、大きなホテルの前の遊園地は、今の季節でも明かりが付き、営業中のように人影も見えず寂しい。バス乗り換えの時間を利用して明日の食料を調達する。乗り換えた倶知安行きバスも数人の乗客のみ、自然の家入口のバス停で一人下車する。舗装はしてあるものの羊蹄山自然の家まで約20分の歩きである。暗闇を利用して着替え、ヘッドランプを取り出して歩き出したが、目の前を黒い影がよぎる一瞬クマか!と思ったが、大きな犬であった。後をついてくる犬に心強くしたが、しばらくして車が通りかかりヒッチに成功、奥にキャンプ場があるらしい。羊蹄山自然の家は結構の建物である。管理人が遅い到着を待ち兼ねていて早速に食堂に案内される。一人分の食事がわびしく新聞紙を被せられ待っていた。

朝、北海道の夜明けは早い。見上げる羊蹄山頂はガスに覆われていたが、まずまずの天候である。荷物を預けて軽装で出発。舗装道路はすぐ途切れ5分程で登山口である。登山者のものらしい数台の車が駐車している。名うての羊蹄山、気合を入れて踏み出した。

樹林の中に広い道が続くが、いきなりの急登が待っていた。再び樹林の中の緩い登りとなり、南コブ展望台への分岐を過ぎて、道が2合半標識を過ぎると右に振るようになる。尾根を右に越えたとルスツ方面の展望が開ける。朝食をあさりに出て来たらしいエゾリスがちょろちょろと愛らしい。4合目の標識を過ぎると道は左に振るようになり、樹林の中のジグザグの急坂ルートとなる。樹木の丈が低くなってきた。

6合目で急に視界が開けニセコ方面の展望が開けるが、すぐに樹林の中の一層の急坂となる。8合目の標識を過ぎ、荒れた沢筋の源頭を横切ると森林限界で、時折、ガスに包まれるが、一気にニセコから昆布岳方面の展望が開ける。眼下に羊蹄山自然の家の赤い屋根と、周辺の緑の芝生が島のように見える。頭上に岩尾根を望むルートをトラバース気味に進むと、9合目の羊蹄山避難小屋の分岐で、岩尾根に乗ると正面に羊蹄山火山の岩稜が連なり、羊蹄山火口壁までは一登りである。避難小屋から火口壁まで広がる草紅葉が、朝の太陽に輝き息を飲むほど美しい。

火口壁の最低部から右回りに頂上に向うが、岩稜歩きは思ったより時間がかかった。火口壁の最高点の頂上では折よく晴れ上がり、ルスツから尻別岳、無意根岳のなだらかな稜線の連なり、

遠く恵庭岳、樽前山までの最高の展望の御馳走である。登山者は思ったより多く、頂上で倶知安から登ってきた向日市出身で、近年に北海道に転勤になったという青年と出会う。互いに懐かしがって乏しい食料を分け合い名残を惜しみながら別れる。三角点は頂上よりも少し先の火口壁の一角にあった。

再び、火口壁は深いガスに包まれ、途中で倶知安へのルートに迷い込みかけたが、旧小屋後から火口壁の最低部に戻り、羊蹄山避難小屋に直下降で立ち寄る。今まで会ったことのないほど無愛想な小屋番であったが、貧相な犬だけが愛想よく尾っぽをちぎれるように振って穴埋めをしてくれた。今まで登ることばかり考えていたが、さて、夕方までに千歳までたどり着く方策はと考えていたら、急坂の下りの記憶も定かで無く、いつの間にか羊蹄山自然の家に戻っていた。綱渡りの様にして千歳へ。しかし、足だけはきっちり記憶をしてくれており、伊丹空港からモノローへの階段は羊蹄山の登りよりきつかった。

【時間記録】

9月19日(金)

札幌(16:20) = ルスツ(18:10) = 羊蹄山自然の家(19:10)

9月20日(土)

羊蹄山自然の家(5:45) - 南コブ展望台分岐(6:10) - 4合目(7:00~7:20) -
6合目(8:10) 8合目(9:00) - 避難小屋分岐(9:20) - 火口壁最低部(9:40) -
頂上(10:30~11:00) 羊蹄山三角点(11:10) - 火口壁最低部(11:45) -
避難小屋(12:00) - 8合目(12:45) - 6合目(12:35) - 4合目(13:25) -
南コブ展望台分岐(14:00) - 羊蹄山自然の家(14:25) = ルスツ(15:00) =
札幌(17:05) = 千歳(17:55)

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2146	台高山脈 蘇岳	9月13日 ~14日		井戸 澄夫	三橋, 森本, 小森, 田村, 上村, 山岡, 清水, 堀田	(別稿詳報)
2147	(変更) 比叡山	9月7日		三橋 勉		参加者がなかった ので行き先を変更 して, 比叡山~玉 体杉~坂本へ行っ てきました。

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
青麻山 番城山	8月21日 8月22日		伊藤 潤治 他 2 名	20万仙台地勢図の山（その1） （別稿詳報）
中ア 空木岳	9月24日 ～26日	晴れ 後雨	吉田 武 三橋 勉 他 1 名	駒ヶ根ロープウエーで千畳敷カールへ、そして伊那前岳と木曾駒ヶ岳に登り翌朝5時40分頃、東の空からご来光を拝む。宝剣から檜尾岳へ縦走する途中で、木曾側から伊那谷にガスが流れて、展望が見え隠れする。熊沢岳、東川岳を越えると急降下で、木曾殿山荘で泊まる。夜中に台風並の風雨に見舞われ、山小屋が飛ばされるかと思った。 翌朝、強風に飛ばされないように注意しながら、小雨まじりの空木岳に登ったが展望なし、長い長い池山尾根を5時間かけてくだり、菅の台のホテルで温泉に入り、やっと人心地ついた所で帰って来た。
八紘嶺と大谷嶺	9月8日 ～10日		坂井 久光	（別稿詳報）
羊蹄山	9月19日 ～20日		岡田 茂久	（別稿詳報）

報 雑

△△△ 10月の集会

日 時 10月8日(水) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 (OB) 鷺見, 三橋, 渡辺
(本局) 岡田, 井戸, 方山, 山元, 松尾, 井上
(梅津) 吉田 (竹田) 大倉 以上11名
内 容 例会報告, 例会予定, その他

△△△ 9月の企画運営委員会

日 時 9月18日(木) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 三橋, 馬淵, 山元
内 容 例会予定, 岳連, その他

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

10月号 北山, 山友, 近畿山行, 趣味の登山, 青嶺, 比良山岳

◎ 秋の山野の危険について

秋の山野で危険なものは「スズメバチ」と「マムシ」です。

スズメバチに刺されないために、どんな事をすれば良いのか、またどんな事をしてはいけないのか。

簡単に言いますと「暴力団と、野生の猿と、スズメバチは相手になってはいけない」

① スズメバチの巣に近寄らないこと。

② 知らないで近寄ると警戒のためにスズメバチが飛んで来てまわりを廻りますがそれだけで決して刺しません。急に逃げたり怖がって手ではらったりすると攻撃されたと解釈して刺しにきます。

③ スズメバチは黒いものを攻撃して来ます。だから頭とか目を刺しに来るのもそれです。秋は黒い服装で山野に入らないことです。

さて刺されたときはどうするか、出来るだけ早くそこから逃げ出すこと。

冷静に、針が残ってないか、自分で、また人に調べてもらいます。そして毒液を出来るだけ絞り出します。次にきれいな水で刺された所を洗います。そして重曹の液で中和させます。ティッシュペーパーを重曹液で濡らして湿布するのも良いでしょう。毒液はヒスタミンを含んで居ますので、抗ヒスタミン系の薬が効きます。またかみ付いて針を刺しますので咬傷がつく場合もあり

ます。これは勿論消毒して傷薬を付けて下さい。これはあくまでも現場での応急処置ですので帰宅後は医者で診てもらって下さい。

体質にも拠りますが刺されると異常反応が起きる人も居ますのでそんな人は急いで医者に行く必要があります。

マムシはどうでしょう。夏の間は獲物を捕るために湿地帯に多く居ますが、秋も深まって来ると尾根に出て来て日なたぼっこをすることが多くなります。これも自分から攻撃してくることはありません。木の枝などでバサバサたたきながら歩くと相手は逃げて行きます。間違っても捕まえてマムシ酒などと考えることです。統計では捕まえ損ねて咬まれた人が多いとのこと。

さて咬まれたらどうすればよいのか。

- ① 咬まれた傷口は牙のあとが2本あるか
- ② すぐに腫れてきたか
- ③ そこが腫れてきたか

これだけあればマムシに間違いありません。でもこの毒はゆっくり廻ります。

- ① あわてるな
- ② やたらに縛るな
- ③ やたらに切るな
- ④ 酒を飲むな
- ⑤ 氷、その他の方法で冷やすな
- ⑥ 勝手に血清を打つな

これだけの項目を守って下さい。

そして出来るだけ早く医者に連れて行って下さい。スズメバチと違って現場ですることは何もありません。一刻も早く医者で診せることが一番大事な事です。

京都府山岳連盟 自然保護委員会 資料より

◎ きのこについて

きのこ観察会資料

1997. 10. 26

京都府山岳連盟自然保護委員会主催

講師 宮村氏

日本で発生するキノコの種類は4,000～5,000種あると言われてはいますが、名前がついているのは半分もありません。その名前がついているキノコでも食用になるのは約200種と言われ、その中でおいしいキノコの仲間は90種ほどが紹介されています。

キノコの科目別に分けると約30科5,000種のうち採取目的は食用キノコです。まずは毒キノコから覚えましょう。とは言うものの毒キノコの簡単な見分け方はあまりせん！

1本食べても死亡する猛毒キノコはいまの所9種ほどあり、毒の強弱はあっても毒キノコとさ

れているのが50～80種見付かっています。色形がそっくりの食用キノコと毒キノコが多くあります。また食用キノコでも腐っていれば中毒を起こしますし食べられるか不明のキノコも多くあります。

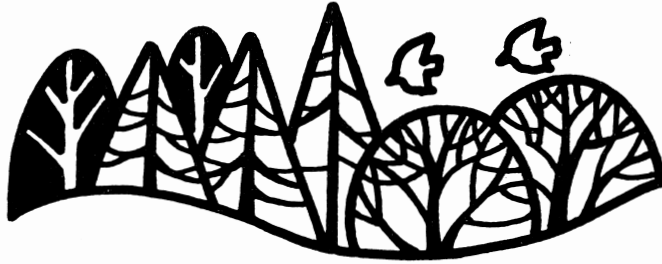
毎年日本でキノコ中毒患者は200～400名ほど出ていますそのうち死亡者は20名前後あります。一家全滅と言う悲惨なことの起こらないように、「疑わしきは食わず」であり、キノコのことをよく知っている人と山に入り確認して採取することが大事です。

毎年キノコの発生量は雨の量、雨の時期、日照時間で変わります。朝晩涼しくなり、金木犀が匂いだと高い山から順次に低い山へキノコが生えて来ます。日ごろの山歩きの時から注意して見ておくことが大事です。9月の残暑の頃から色々な早出のキノコが目につきます。ベニタケ科、テングタケ科、ハラタケ科、イグチ科のキノコが多いが毒キノコであったり食べられないキノコで、おいしいキノコは10月頃から多く出て来ます。

キノコの採れる場所は樹種がキノコ捜しの目安となります。赤松とコナラ林のあまり密生していない場所、カラ松の混生した林等はキシメジの仲間10種程、イグチの仲間10種程でベニタケの仲間も多いが食べられないのも多い。10月中頃から枯れ木、倒木、切株などにフウセンタケ科、モエギタケ科の味の良いキノコが大量に発生します。ブナ林、ミズナラ、モミ等の林が多い京都は芦生、奥美濃、北陸、信州、東北の山地がキノコの本場です。

キノコ狩りの注意点としては、10月～11月は京都地方は松茸山があり入山出来ない山も多いのでむやみに入ってはけません。マムシ、大スズメバチ等も活躍していますので明るい服装、帽子が大スズメバチ対策には良いでしょう。地面ばかり見ていると方向感覚を失い道に迷うこともあります。いつの間にか一山越えてとんでもない所へ出て帰れないこともあります。帰ろうとして谷に降りるのは絶対禁物です。滝がありますし、苔ですべて転落事故も起きています。秋は日暮れも早いので遭難さわぎにならないように明るい間に下山しましょう。山奥には熊もいます出会い頭が一番危険ですのでこちらの存在を熊に知らせる工夫、ザックにベルを付けるとか木の枝で周りをたたきながら歩くとかすれば熊は逃げます。キノコ狩りは面白いことも多いのですが危険な事も同じだけあります。注意して下さい。

京都府山岳連盟 自然保護委員会 資料より



家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎601 電話 (075)672-6101(代)
FAX (075)661-7332

八坂運送有限公司

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL (075) 571-1108

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限公司

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



株式会社 **ロッジ**
LODGE

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US製出品
ポイズナフト用品

MOUNTAIN

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
営業時間 AM10:00-PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コーポレーション

葦あしの髄ずいから天井てんじょうを覗のぞく… ③

前号で紹介した小社発行の『俳句のつくり方』の著書、藤原宇城先生に山の名句を選んで戴いた。一本たてる間に想が浮かんだら、すぐにメモって後に推敲し、紀行文にちりばめられるのも一興。

萩咲けり浅間をのぼる雲乱れ 水原秋櫻子
秋高し空より青き南部富士 山口青邨
行く秋や岳の祠に鍵かかり 鈴木りう三

制作 楠北斗プリント社
〇七五―七九一―六一二五
(文責 波多野)

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)
☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成9年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部